第１学年　音楽科学習指導案

に組　男子 20 名　女子 20 名　計 40 名

指 導 者　　五 代　　香 織

１　題　　材　　ふぞくしょうのできごとをおんがくであらわそう

教材　　ふぞくしょうのできごとをおんがくであらわそう

２　題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは，生活経験の中で自分の思いのままに歌ったり，簡単なリズム楽器を使って遊んだりする活動を通して,その心地よさを味わいながら生活の中で音楽に親しんできている。また，自分のイメージを動きや言葉などで表現する活動を通して，自分の気持ちを込めて表現する楽しさも味わってきている。さらに子どもたちは，小学校という新しい環境の中で，いろいろな音や音楽に触れ，自分の思いを表現してみたいという欲求が高まってきている。

そこで，ここでは，実際に経験したことを基にして音楽づくりをする活動を通して，音の出し方を確かめながら，音楽をつくって表現する能力を育てるとともに，身近な音を音楽で表すことに関心をもち，自分の表したい音のイメージと音楽の要素とを結び付けて，音の出し方を工夫する能力を高めることをねらいとして，本題材「ふぞくしょうのできごとをおんがくであらわそう」を設定した。

ここでの学習は，イメージに合った音色の楽器を組み合わせて，音楽を形づくっている要素を生かしながら音楽で表す能力を育てる第２学年題材「たんけんで見つけたことを音がくであらわそう」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

音の出し方を確かめながら，音楽をつくって表現する能力を高めるためには，耳を澄ませて音を聴き，それらの特徴に気付き，音の出し方を工夫していくことが効果的である。特にこの期の子どもたちには,「こんな音を出してみたい」など，音楽をつくることに対する考えや願いをもち，自分が表現したい音と音楽を形づくっている要素とを関係付けて楽しみながら，自ら音に働きかけていくことが大切である。

具体的には,「ふぞくしょうのできごとをおんがくであらわそう」を取り上げる。この教材は，**入学して間もない附属小学校の生活の中にある様々な音を題材にして，それらの音を身近な楽器を使ってつくる**ことができる教材であり，自分の表したい音のイメージと音楽を形づくっている要素とを結び付けて表現することに適している。

そこで，まず，学校探検を通して，学校生活の中にある様々な音を見つける活動を行い，耳を澄ませて音を聴くことで，**身の回りには様々な音があることや，それらの特徴に気付く**ことの喜びや楽しさを味わえるようにする。

次に，見つけた音の中から，自分が楽器で表してみたい音を選び，音楽で表す活動を行う。そこで，ここでは，**自分が表してみたい音のイメージ（明るい，きれい，元気等）を明確にもたせる**ことで，自分の表したい音のイメージと音楽を形づくっている要素とを結び付けて表現することの喜びや楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して，子どもたちは，自分が表してみたい音のイメージと音楽を形づくっている要素とを結び付けることのよさを味わい，音の様々な特徴に気付き，思いをもって音楽をつくる楽しさを味わいながら，音を音楽にしていくことへの関心・意欲を高め，音楽と豊かにかかわっていこうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象　１年に組　男子 20 名　女子 20 名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

① 音楽をつくることは，楽しいと思いますか。

はい（36）　いいえ（４）

② その理由を答えてください。（複数回答）

【「はい」の理由】
・いろいろな楽器が使えるから（23）　・初めてだからやってみたいから（13）
・難しそうだけどできたらうれしいから（12）　・自分の思ったことが音になるから（８）
・何かをつくることが好きだから（３）
【「いいえ」の理由】
・自分でつくるのは難しそうだから（３）　・どんなことをするか分からないから（１）

③ 「大きなぞうさんが歩いている」様子を，音楽で表したいと思います。どんな楽器で，どのようにつくりますか。

【どんな楽器で】
・大太鼓（18）　・ラッパ（12）　・ピアノ（５）　・ハーモニカ（１）
・笛（１）　・小太鼓（１）　・シンバル（１）　・クラリネット（１）
・「ぞうさん」の歌を歌う（１）
【どのようにつくるか】
・「パオーン」と吹く（20）　・大きくならす（10）　・ゆっくりならす（５）
・ぞうのまねをしながら楽器を鳴らす（１）　・わからない（４）

④ 正しい奏法での模倣（大きい音，小さい音）

・タンブリン・・・・・できる（27）　できない（13）
・すず・・・・・・・・できる（38）　できない（２）
・トライアングル・・・できる（36）　できない（４）

①②から， 子どもたちの多くが音楽づくりの活動に対して「楽しそうだ」と感じており，様々な楽器の音に触れられるよさや，新しい学習についての期待を理由に挙げている。一方，「楽しいと思わない」と答えた子どもたちの理由として，「音楽をつくる」ということに対する抵抗感や未経験な学習に対する不安が挙げられた。そこで，身近な音を題材にし，学習の見通しをもたせながら，自分の思いを音楽で表すことができるよさを味わえるようにする必要がある。

③から，表したい音のイメージを，知っている楽器の音で表そうとする子どもが多いが，演奏したことのない楽器を選択した子どももいた。また，音色に着目してつくろうとする子どもは多かったが，強弱や速度などに着目している子どもはほとんどいない。それは，「ぞう＝鳴き声」というイメージが先行しており，「大きい」，「歩く」といった様子に着目していないことが考えられる。そこで，**表したい音のイメージを明確にもたせることで，身近な楽器で音楽を形づくっている要素を工夫してつくることができるようにする必要がある。**

④から， 多くの児童が正しい奏法で強弱の変化をつけて音を出すことができていたが，タンブリンを正しくもっていなかったり，強弱の変化があまりつけられなかったりした子どももいた。それは，これまでの経験の違いや，教師の範奏をよく聴いていないことが考えられる。そこで，楽器の基本的な奏法を確かめたり，音を注意深く聴いたりするような活動を取り入れる必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて，指導にあたっては次のようなことに留意したい。

ア　子どもたちが学習の見通しをもちながら，意欲的に自分の思いを音楽で表すことができるようにするために，音を注意深く聴く場面を取り入れ，多くの音にふれさせるようにする。また，題材の導入時に教師の作品例を聴かせるようにし，そこで感じ取った音の特徴や音楽を形づくっている要素を生かすことができるようにする。

イ　子どもたちが，様々な音楽を形づくっている要素を生かして音楽づくりができるようにするために，**自分の表したい音のイメージや，友達の作品を聴いて感じたことを言葉で表したりするような場を設定する。**

ウ　子どもたちが，楽器の奏法を確かめながら表現できるようにするために，教師の作品例を演奏させたり，絵譜等でリズムを視覚的にとらえさせたりするような活動や板書の工夫を行う。

３　目　　標

(1)　身の回りの音を音楽で表すことに関心をもち,進んで音楽づくりの活動に取り組むことができる。
(2)　自分の表したいイメージと音楽の要素とを結び付けて，音の出し方を工夫することができる。
(3)　音の出し方を確かめながら，音楽をつくって表現することができる。

４　指導計画（全４時間）

過　程	時	教材	主　な　学　習　活　動	教師の具体的な働きかけ
課題把握 課題追求Ⅰ	1	ふぞくしょうのできごとをおんがくであらわそう	どんなようすを　あらわしているのかな。 ○　教師の作品例を聴き,何の音を表しているのか話し合う。 ・　弱くて長い音をすすでならしているよ。 ・　葉っぱがゆれている音かな。 ○　学校探検をし,校内のいろいろな音を見つける。 ・　にわとりの鳴き声を見つけた。	○　様々な音楽の要素に気付かせるために，何の音を表すかは知らせないで教師が演奏する。 **○　身の回りの関心をもたせるために，学校探検をし，学校生活に様々な音があることに気付かせる。** ○　様々な音に着目させるために,「耳を澄ますと，大きい音や小さい音，人間の出す音，機械の音，生き物や風の音など，いろいろな音がありますよ」等，音を注意深く聴くように促す。
課題追求Ⅱ	2		がっこうで　みつけた　おとを　おんがくで　あらわそう。 ○　見つけた音がどんな音だったか話し合う。 ・　にわとりの鳴き声は，元気がいい感じがした。 ・　葉っぱがゆれる音は，小さな音だった。 ○　見つけた音に合うような楽器を選ぶ。 ・　元気がいいから，大きい音の出るカスタネットにしよう。 【音色への着目】	**○　表したい音のイメージを明確にもたせるために，表したい音が「どんな」音なのかを考えさせる。** ○　音楽づくりが進んでいない子には,「○○さんは，△△の音を音の大きさで表したいようなんだけど，どんなふうに鳴らしたらいいかな」などと全体に問いかけ，話合いの場をもつようにする ○　音楽の要素とイメージとの結びつきを明確にするために,「○○さんはにわとりの鳴き声を音楽の何で表したのかな」と問いかけるようにする。
	3（本時）		つくった　おんがくを　もっと　すてきに　しよう。 ○　友達や先生のアドバイスを基にして，再度音楽づくりをする。 ・　楽器をカスタネットから，すずに替えたほうが,楽しい感じが出そうだぞ。	○　個人差に対応するために，できた子どもには，同じ対象物で別の音（にわとりであれば　歩く音）に気付かせ，それを「問い（鳴き声)」と「答え（歩く音)」の組合せで表現を考えさせる。
まとめ	4		つくった　おんがくを　はっぴょうしよう。 ○　相互発表・鑑賞をする ・　ペアで ・　全体で ○　学習のまとめをする。 ・　楽器の音や，リズムを考えながらつくることが楽しかった。 ・　ほかの音も表してみたいな。	○　相互発表・鑑賞では，互いの表現を認め合えるようにするために，イメージと音楽の要素とを結び付けて称賛させるようにする。 ○　次への学習につながるように，学習のまとめでは，何が楽しかったのか，できるようになったのかを明確にさせる。

５　本　　時（３／４）

(1)　目　標

ア　自分のイメージと音楽を形づくっている要素を結び付けることに関心をもち，音楽づくりの活動に進んで取り組むことができる。

イ　イメージと音楽を形づくっている要素とを結び付けて，音の出し方を工夫することができる。

(2)　本時の展開に当たって

本時は，前時にひとまずつくった音楽を，より表したいイメージに近づけるためには音楽の要素の何を使って表現するか思考させる。そのために，一人の表現を全体で取り上げてみんなで考える場の設定を行ったり，ペアで発表し合って互いの音楽を称賛したりする場の設定を行うようにする。

(3)　実　際

過　程	主　な　学　習　活　動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1　前時の学習を振り返る。 ・　学校の音を表したよ。 ・　にわとりの鳴き声を，カスタネットで表したよ。 2　本時の学習について話し合う。 つくった　おんがくを　もっと　すてきに　しよう。 3　音楽づくりをするために工夫することについて確認する。 ・　楽器の音　・　リズム　・　速さ ・　音の大きさ・　音の長さ・　反復	(分) 10	○　表したい音のイメージと音楽の要素とが結び付けられたことを実感させるために，「○○を表すために，△△（音楽の要素）を考えたんだね」と称賛する。 **○　音楽の要素に気付かせるために，「○○さんはにわとりの鳴き声を音楽の何を使って表したのかな」等と問いかけるようにする。** ○　音楽づくりが進んでいない子には，「○○さんは，△△の音を音の大きさで表したいようなんだけど，どんなふうに鳴らしたらいいかな」などと全体に問いかけ，話合いの場をもつようにする。
課題追求	4　自分の表したい音のイメージと音楽の要素とを，どのように結び付けたらよいか考えながら音楽づくりをする。 (1) 表したい音のイメージに合った音楽づくりをする。 ・　にわとりの鳴き声は，「タン・タタン・ターン」って鳴らすと伝わるかな。 ・　もっと短い音が出るカスタネットにしよう。 (2) 友達や教師のアドバイスをもとに，さらに表現を練り上げる。	30	○　個人差に対応するために，できた子どもには，同じ対象物で別の音（にわとりであれば　歩く音）に気付かせ，それを「問い（鳴き声）」と「答え（歩く音）」の組合せで表現を考えさせる。 ○　相互発表・鑑賞では，互いの表現を認め合えるようにするために，「にわとりの鳴き声が，リズムで上手に表せていましたね」などとイメージと音楽の要素とを結び付けて称賛させるようにする。
まとめ	5　相互発表・鑑賞をする。 (1) ペアで (2) 全体で 6　本時の学習を振り返り，学習のまとめをする。 ・　楽器の音や，リズムを考えてつくったのが楽しかったです。 ・　友達がつくった音楽も聴いてみたいです。	5	**○　今後の学習につながるようにするために，学習のまとめでは，何が楽しかったのか，できるようになったのかを明確にさせて発表できるようにする。**